

いきいきエデュケア⑬

子育て・孫育て・自分育ち



和田 重良

くだけ会代表

み出されて残っています。

昔、子どもたちがまだ小さかった頃、伊藤隆二先生

(当時はまだ神戸大学か横浜市立大学の教授でいらした

と思います)が突然我が家にお寄りくださったことがあ

ります。足の踏み場もないほどの乱雑な部屋を突っ切っ

て歩きながら「子どものいる家はこういうふうには散らか

っていた方が居心地がいいんだよね」とおっしゃって下

さったのです。なんだかホッとしました。それからです。

僕が「居心地のよい空間」を我が家のテーマにしたのは。

もちろん乱雑にしるという事ではありません。イライ

ラカリカリしているよりはお父さんにもお母さんにも子

どもたちにも「ここが居場所なんだ」と思える空間です。

伊藤先生は言いようがなくて「散らかっていた方が居心

地がいい」とおっしゃって下さったのです。とてもいい

表現です。子どもにとっても大人にとっても「家庭での

居室」は「居心地」という大切な空気感があるってこと

です。子どもが少し大きくなると、個室のあるなしや、勉強

部屋の設定の仕方などが問題になります。これも実は決

定的な条件があるわけではなくて、思春期以降の子ども

に対して、どれだけ「個の尊厳」を認め、おとなとして

どれだけ「自己」を育てて行くかというテーマの方が重

大なことなのです。というのは、一個の人間として「自

己の確立」をしてゆく時期に差し掛かかっているのです

から、たとえ親といえども踏みにじってはいけないこと

ができてくるのです。居心地よくするためです。

自立できていかない人の中にはそういう原因があると

思えることがあるのです。要するに「居心地のよい空

間」である「家庭」が得られないと外に向かって一歩た

強部屋があっても自立はできないのです。

親が「個の尊厳」を大切に育てられずに自己を確立で

きないと判断が全部人任せになってしまいます。

ゲーム全盛時代になって益々、家庭の「居心地のよい

空間」作りは親の務めの一大事です。言い換えれば「家

庭で一人一人を生かす」という宿題です。

家族——「一人っ子」

「子どもが一人」という事に根源的な問題があるわ

けではありません。だから「一人っ子だからわがままに

育つ」というのは全くの暴論です。

というのは、教育は相手は何人いようと一対一で対す

るのが基本です。夫婦の間に子供が一人だとしても「お

母さんと子ども」「お父さんと子ども」「お父さんとお母

さん」といった一対一関係が成り立っていることが重要

なのです。それができていないと、年の離れた兄弟がで

きて「一人っ子二人」状態が複雑になったりするので

子どもの年齢相応に「自立」はとても重要です。子ど

もが複数ならてきとうに目こぼしができて、その分「自

分でやらなきゃあならないこと」が多くなります。一人

つきりだと親の目がどうしても一人に集中しますからサ

ービスも行き過ぎて、ついつい先回りして「やってあげ

る」ことが多くなってしまいます。前回書いた第一子も

同じことが言えます。

親の心配が優先されてしまつて一個の人間の成長とし

ての自立的判断ができなくなっていくのです。

親の方が自立していないのですね。不安だから。

なんでも付いて行ってあげる。何でも一緒にしてあげ

してあげる。ってなことをしているうちに、子の方が親

をコントロールする作戦を心得てしまい、何も判断でき

ない中学生ができ、親と一緒にじゃなきゃあられない大

人ができてしまいます。

高校生になつても両親の間に寝ている子がいました。

中学生になつてもお母さんと一緒にお風呂に入っている

子もいました。手放せないのです。それで、大人になつ

ても「自分で生きていけない」なんて言ってくるわけです。

「一人っ子」だつて多くは普通に立派な大人になつてい

ます。両親が子どもの「自己確立」をしっかり見て、年

齢相応に順に手放して距離を測って行けばいいのです。

ことに性的成長に合わせていくことは重要です。マザコ

ンにならないために。